

JA全農ウィークリー

J A Z E N - N O H W E E K L Y

Web版
JA全農ウィークリーは
こちらから



<https://www.zennoh-weekly.jp/>



2面

「籾殻再資源化施設」が竣工

(福岡県本部)

3面

スマート農業技術の理解へ実演会

(岐阜県本部)

配送先変更(住所・宛名)、
配布部数変更はこちら



<https://forms.office.com/r/yUWVHyVVtK>

News!



「籾殻再資源化施設」が竣工

特殊な燃焼炉を導入し籾殻を有効活用

福岡県本部



新しく完成した「籾殻再資源化施設」

福岡県本部は、農業残渣である籾殻の有効活用に向けて、籾殻燃焼灰の製造などさまざまな切り口で取り組みを進めています。「籾殻再資源化施設」の新築工事が完了し、5月27日に竣工式を開催しました。

竣工式には、乗富幸雄運営委員会会長をはじめ、全農・JA役職員や関係者約45人が出席し、完成を祝いました。乗富会長は「農業界でも環境負荷の低減が求められる中、まさに時代に即した施設であり、モデ

ル施設としてぜひ成功させていきたい」と激励を込めてあいさつしました。

籾殻は昔から園芸農家や畜産農家で利用されていたが、農家数の減少に伴い利用量が減ったことで、処分費用のかかる厄介者となっていました。同施設

では、特殊な燃焼炉を導入することで籾殻に多く含まれるシリカ（ケイ酸）の成分濃度を高めた籾殻燃焼灰を製造し、化学・飼料・肥料向けに販売する予定です。

福岡県本部では、籾殻に限らずさまざまな農業残渣のアップサイクル（創造的再利用）に向けた検討を進めていきます。

News!



「大分味一ねぎ」で4品を開発

セブン-イレブンと連携 宇佐市長に取り組み報告

大分県本部

新商品を手にする大窪部会長（左から2人目）と後藤市長（同3人目）ら



大分県本部は、セブン-イレブンと連携し、大分県産「大分味一ねぎ」を使用した総菜や弁当などの4品を開発しました。5月7日には宇佐市の後藤竜也市長を表敬訪問し、商品開発に至った経過や取り組みを報告しました。

大分県本部では、大分県産品の認知度向上や消費拡大を目的にさまざまなPR活動を行っていきます。活動の一環として、「大分味一ねぎ」の最盛期に合わせて、セブン-イレブン

と連携し、2023年に商品化した「ねぎ焼き」のリニューアルと、新たにねぎり、焼きそば、豚丼を開発しました。

表敬訪問で、大分味一ねぎ生産部会の大窪勉部会長は、「ねぎといえば薬味というイメージだが、主役として大分味一ねぎを食べてもらえるのはありがたい」と話しました。「ねぎ焼き」を試食した後藤市長は、「ねぎの風味がしっかり出ている、脇役ではなく主役になっている。多くの人に食べてもらいたい」と話しました。

特に、好評だったおにぎりや焼きそばは、九州地方での販売拡大が決定しました。今後もより多くの消費者へ大分県産農産物の魅力を伝えていきます。



令和8年産麦の民間流通連絡協議会に参加

流通の仕組み決定を受け、関係者が取り組み協議

麦類農産部



JAビルで開催された第49回民間流通連絡協議会

全農は5月29日、第49回民間流通連絡協議会に参加しました。令和8年産麦の流通の仕組みの決定を受け、産地と連携して、安全・安心かつ需要に応じた国内産麦の流通に向けた取り組みを進めていきます。

民間流通連絡協議会は、生産者と実需者の代表者や農林水産省などの関係者が一堂に会し、産地の生産事情、実需者による品質要望

などに関する情報交換や年産ごとの流通の仕組みを協議決定する重要な会議です。本年、全農からは金森正幸常務理事、木暮高成群馬県副本部長、中島紀久雄埼玉県副本部長、正木栄作福岡県副本部長が出席しました。

7年4月に食料・農業・農村基本計画が閣議決定され、12年度に小麦137万ト(6年産実績102万ト)、大麦・はだか麦26万ト(6年産実績19万ト)とする目標が示されました。計画達成のためには、安全・安心を基本に、これまで以上の需要に応じた生産や品質向上が重要です。全農は引き続き生産者・JAの皆さまが安心して麦作経営が続けられるよう取り組んでいきます。



スマート農業技術の理解へ実演会

「ザルビオフィールドマネージャー」の活用も紹介

岐阜県本部



ザルビオで作成したデータを確認

実演会では、栽培支援システム「ザルビオフィールドマネージャー」を活用して圃場の地力を解析し、土壌や生育傾向のばらつきに応じた施肥設計データを作成。作成データを田植機と連携させ、田植機が自動で施肥量を調整する側条可変施肥(株)SEKI Japan関西中部カンパニー協力)を実演しました。ザルビオは、衛星画像とAIを活用して生育判断や栽培計画をサポートしま

岐阜県本部は5月22日、JAにしみのと岐阜県の共催により、スマート農業技術の実演会を開催しました。生産者やJA、行政など約90人が参加し、最新の農業技術について理解を深めました。



田植機が自動で施肥を行う側条可変施肥の実演

す。これにより品質や収量の向上と安定化につながります。また、可変施肥機能や直進アシスト機能を備えた農機と連携させることで、作業の省力化や効率化、施肥の最適化が図れます。7月にはドローンを活用した実演を予定しており、さらに実証試験圃場での効果検証報告会も計画しています。岐阜県本部では、営農対策課と機械課が連携し、スマート農業の普及拡大に向けて推進しています。

News!



「あきたフレッシュ大使」へ委嘱状

秋田県産青果物の魅力を県内外へPR

秋田県本部



あきたフレッシュ大使に選ばれた3人



岩崎さんが代表して決意表明

「あきたフレッシュ大使」は、秋田県産青果物の販売促進とPRのため、県やJA・秋田県本部などで構成する「あきた園芸戦略対策協議会（事務局・秋田県本部）」が募集しました。委嘱状交付式では、同協議会の虻川和義会長が3人に委嘱状を手渡し、『生産者と消費者を結ぶ懸け橋』になり得るよう生産者の思いをしっかりと心に刻み、

笑顔で元気に頑張ってほしい」と激励しました。「あきたフレッシュ大使」を代表して岩崎さんが「秋田県産青果物の素晴らしさを伝えるため、一生懸命学びながら積極的に活動します」と決意表明しました。「あきたフレッシュ大使」は6月からの1年間、県内外で開催されるPRイベントやキャンペーンに参加し、県産青果物の魅力をお伝えしていきます。

令和7年度「あきたフレッシュ大使」が決定し、5月30日、秋田市の秋田キャッスルホテルで委嘱状交付式を行いました。今年度は、岩崎夏帆さん、後藤茉莉花さん、武藤百々さんの3人が選ばれました。

News!



JAグループ物流会社連絡会を開催

ホクレンが講演、物流課題を共有し解決策探る

JAグループ物流会社連絡会

札幌市で開かれた第3回
JAグループ物流会社連絡会

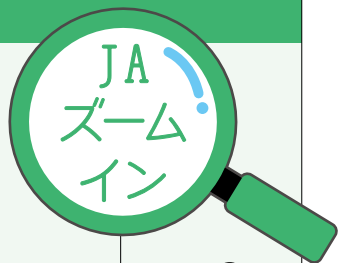


札幌市で5月22日に開催された「第3回JAグループ物流会社連絡会」では、ホクレン物流部が講師となり「北海道農業を取り巻く物流情勢とホクレンの物流改革」について講演を行いました。講演では、北海道特有の物流課題と、それに対する取り組みを中心に説明しました。課題として挙げら

れた「新幹線開通に伴う在来線の存続および青函トンネルでの貨物列車との並走」のほか、「鉄道の維持が困難な線区の存続」や「フェリー・RORO船における船員・作業員の不足および燃料価格の高騰」などは、他地域にも共通する問題であり、これらの課題に対して参加各社からは多くの質問が出て意見交換されました。

JAグループ物流会社連絡会では、今後もメンバー間の連携を深め、物流改善に向けた取り組みを推進することで、参加各社やJAグループ全体の発展に貢献していきます。

2023年度に発足した「JAグループ物流会社連絡会」は、物流会社が直面するさまざまな課題を共有し、その解決を図ることを目的として、毎年開催されています。今回、第3回連絡会が開催されました。



50周年迎え産地づくりに弾み

西瓜部会が日本農業賞大賞受賞

JA金沢市は南北に長く伸びる石川県のほぼ中央に位置し、東は富山県境から西は日本海、南は白山山麓から北の河北潟までをエリアとしています。2024年には、半世紀の大きな節目となる合併50周年を迎えました。

東部は果樹・林産物、西部はスイカ・ダイコン・サツマイモ、南部は軟弱野菜・果樹・タケノコ、北部は水稲・レンコンを主産物としています。今年、第54回日本農業

賞で集団組織の部・大賞を受賞したJA金沢市砂丘地集出荷場西瓜部会（1979年発足）は、46年続く共販部会として産地維持に向けた取り組みが大きく評価されています。

「金沢すいか」順調に拡大
売上高は15億円台に

石川県の農業産出額は、米、鶏卵、生乳に次いで4番目はスイカです（農林水産省調べ）。この県産スイカの7

割を占めるのが、金沢の名を冠した「金沢すいか」。JA金沢市砂丘地集出荷場西瓜部会が栽培を手掛け、24年度産の作付面積は約103畝で出荷量6000ト超、売上高は過去最高の15億円台に上り、販路も関西地区から関東、中京へと順調な広がりを見せています。

共販システムを支える西瓜部会は現在57戸。20〜40代の若手が役員を担うスタイルで、若手就農者の確保や次



第54回日本農業賞で
集団組織の部・大賞を受賞



金沢すいかロゴ

世代の担い手育成の基盤を形成しています。部会構成だけでなく、販売・作付け計画や新品種の導入や栽培技術指導など、所得向上につながる持続可能な産地の在り方を見だし、各世代が一丸となって産地づくりに携わっています。

〃わくわくする〃企画で
金沢産ファンを増やす

他の大産地に比べると小規模ながらも、短期間に高品質かつ安定供給することで市場のニーズに添えていくことが何より大切。その上で〃わくわくする〃ような消費者とのつながりも大切にしようと、今年は「金沢すいか」のオンライン収穫体験を実施しました。

JA金沢市 (石川県)



概要

2025年3月31日現在

正組合員数	5930人
准組合員数	8685人
職員数	279人
販売品取扱高	75億5千万円
購買品取扱高	47億5千万円
貯金残高	2212億円
長期共済保有高	4504億3千万円
主な農畜産物	米、タケノコ、キュウリ、
加賀太きゅうり、ダイコン、トマト、五郎島金時、	
加賀れんこん、スイカ、小玉スイカ、梨	

安心・安全な農産物を出荷し、産地を知ってもらおう工夫を重ねながら、根強い金沢産ファンを増やす取り組みを行っています。



(上) オンラインイベントを行う生産者
(左) JA金沢市砂丘地集出荷場西瓜部会役員



金沢すいか

全農グループ
会社探訪

全農グリーンリソース株式会社

肥料をはじめとした農業に不可欠な

「資源」のサプライチェーンを担う事業を展開

全農グリーンリソース株式会社は、JAグループの一員として、JA全農が扱う肥料原料・肥料の海外からの輸入、国内の港湾での荷役、保管管理、ふろい篩・袋詰めなどの加工、肥料メーカーなど国内顧客に届けるまでのサプライチェーンを一貫して担う、国内最大の肥料原料取り扱い会社です。

【広報・調査部】

新潟東港に最初の原料基地
各地に拠点築き一貫体制へ

1969年、海外からの肥料原料受け入れのため大規模な港湾荷役施設と保管倉庫を



自社バース（港）への本船入津



本船揚荷役を担う

備えた原料基地として、新潟県の新潟東港に「新東バース株式会社」として誕生しました。76年、西日本の拠点として広島県の江田島で事業を開始。88年には、北海道苫小牧市に「くみあい肥料センター」を設立（95年譲渡）、社名を「全農バース株式会社」に改称しました。

その後、90年に青森県八戸港、茨城県鹿島港、93年に愛知県衣浦港に拠点を開設しました。92年にはJA全農から輸入肥料の取り扱い業務を受託し、元請けとして各地の

港湾・倉庫業者を傘下に、全国への輸入肥料原料の保管・配送・情報システムの一貫体制を整備しました。

2005年、株式会社組合貿易から肥料・農薬・農業資材の輸入業務の移管を受け、社名を現在の「全農グリーンリソース株式会社」に改称し、海外供給元から国内顧客に届けるまでのサプライチェーンを一貫して担っています。

原料供給の重要性増す
肥料原料備蓄事業で
新倉庫を建設

肥料は農作物の生産に欠かせない資源ですが、肥料の主要成分である窒素・リン酸・カリのもととなる原料のほとんど

を海外からの輸入に頼っています。特に、リン鉱石とカリは鉱物資源であり世界的に産地が偏在し、国際市況の高騰や資源争奪となるリスクが高い状況にあります。そのような中、2021年からの世界的な肥料価格高騰を受け、肥料原料の主要供給国・中国による輸出制限、22年のカリ産出国・ロシアのウクライナ侵攻を受けた経済制裁による輸入停止などにより、肥料原料の調達不安が高まりました。

食料安全保障上、肥料原料供給の重要性が増したことから、2022年に経済安全保障推進法にもとづく「特定重要物資」に肥料が指定され、肥



肥料を保管している倉庫内

会社の概要（2025年6月現在）

本社所在地

東京都千代田区神田小川町一丁目10番地

事業内容

- 倉庫業
- 埠頭業
- 港湾運送事業
- 海上運送事業
- 貨物自動車運送事業
- 海運代理店業
- 貨物利用運送事業
- 船用品販売業
- 物流加工業
- 前各号に関する施設・装置の賃貸借、管理および請負業
- 次の商品に関する輸出入、売買、製造・加工、代理および仲立業
 - 肥料、肥料原料
 - その他農業関連資材とその原材料
 - 鉱工業製品とその原材料
- 農産物加工原材料の輸出入、売買、代理および仲立業
- 前各号に関する調査、研究、開発の請負業
- 前各号に付帯する一切の業務

創業年月日

1969年5月15日

代表者

代表取締役社長
熊坂 準三

従業員数

89人

公式 HP



挑戦と改革

これからも、価値あるサービスを

代表取締役社長 熊坂 準三 氏



今年は「全農グリーンリソース」になって、20周年にあたります。当社の基軸である港湾・倉庫事業は、全農肥料原料の取り扱いになくてはならない事業であり、2025年度から始まった中期3カ年計画では、事業継続に必要な経営基盤となる施設・設備を整備・強化し、持続的な競争優位を堅持することを目標としています。

社員の成長と会社の成長を確かなものとし、企業価値を高めるよう、DX導入、生産性向上など、これまで多くの改革・挑戦に取り組んでまいりました。今後も、日本農業を支えるJAグループの一員として、株主である全農、取引各社、社員のすべてのステークホルダーの期待に応える価値あるサービスを提供し続けていきます。



新潟支店の倉庫上空から撮影

原料料備蓄事業が開始されました。これにより、当社は、全国の港湾倉庫業者とも連携

し、約10万トンの肥料原料（リン安・塩化カリ）を備蓄しています。また、事業助成金を活用して、鹿島支店で8000トンの新倉庫の建設に着手し、26年の竣工を予定しています。

生産事業部門を立ち上げ 園芸資材と包装資材を普及

2018年から新たに生産事業部門を立ち上げ、園芸資材と包装資材の普及に取り組みしています。園芸資材分野では、18年からオランダのロックワール社の培地（商品ブランド：Grodan）の販売を、20年からは高度施設園芸用資材や環境制御機器の輸入販売を開始しました。

包装資材分野では、ユーザーの要望に合わせたさまざまな用途・規格のフレキシブルコンテナなどの開発・輸入を行っています。これからも事業領域の拡大を進め、農業生産に関するさまざまな資源を提供していきます。

社員のキャリアアップへ 教育研修制度を拡充

社員の成長が会社の成長につながることを目指し、近年、



ロックワール社の培地（商品ブランド：Grodan）

さまざまな取り組みを行っています。社員がキャリアアップを持つて業務と能力開発に取り組む、自らの成長とキャリアアップを実現していくために、2023年に人事・給与制度を全面的に見直しました。24年には教育研修制度の拡充を行いました。

また、社内コミュニケーションを活性化するために、22年から社員アンケート、23年から社長と全社員との意見交換会を実施しています。25年秋には、現在の3フロアから1フロア化するために、本社オフィスの移転（千代田区麹町）も予定しています。

ニッポンエール「長芋の醤油漬」販売

青森県産 ネバリスターを使ってピクルスコーポレーションと共同開発

全農は株式会社ピクルスコーポレーションとの共同開発商品として、ニッポンエール「長芋の醤油漬 (青森県産ながいも)」を開発しました。(株)ピクルスコーポレーションより、(株)ヨークベニマル限定で販売しています。

【営業開発部・青森県本部】

ニッポンエール「長芋の醤油漬 (青森県産ながいも)」は、JAゆうき青森が供給した青森県産「ネバリスター」を原材料として使用しています。「ネバリスター」のシャキシャキ感と醤油のうまみが癖になる漬物を、この機会にぜひお楽しみください。

全農と(株)ピクルスコーポレーションは、今後も特徴ある国産原料を使用した商品開発をすすめていきます。



ニッポンエール
「長芋の醤油漬 (青森県産ながいも)」



おむすびレンジャーがバケツ稲作り

食と農への関心を深めるきっかけに

茨城県本部は5月10日、いばらきコープと共同で「田んぼのがっこう」2025年度おむすびレンジャーを、ポケットファームときどき茨城町店で開催しました。16回目の開催となる今年は、12家族37人が参加しました。

【茨城県本部】

この取り組みは、子どもたちがバケツ稲を育て、米の生産から消費までの過程を体験することで、稲作や農業に対する理解を深めることを目的としています。

参加者は、泥だらけになりながら一生懸命に小さな田んぼを作り、それぞれが思い思いの本数の苗を植えていました。バケツ稲が完成した後は、子どもたちが自宅で約4カ月間、大切に育てます。

茨城県本部のホームページでは、今年も「バケツ稲観察日記」を公開しています。



職員が先生になり子どもたちと一緒に田んぼ作り



バケツ稲
観察日記は
こちら



広島とれたて元気市

ほうじゅん
芳醇な香りと甘みを包んだ「三次ピオーネ」。大きな粒に黒く輝く皮をまとい、その見た目から「黒い真珠」の愛称で親しまれています。広島県の東部、中国地方のほぼ中央にある三次市で「三次ピオーネ生産組合」が丹念に育てあげています。

この地域は、秋から春にかけて霧に覆われる日が多く、地元では「霧の海」として有名です。この霧を発生させる寒暖差こそ、ブドウの栽培に適しているといえます。じゅわっとあふれ出る果汁・爽やかな酸味・濃厚な甘さが特徴の広島が誇る夏の味覚を、ぜひご賞味ください。



「黒い真珠」 三次ピオーネ
(ハウスもの2房入り)
…5850円(税込み)

ご注文は
こちらから



▶ JAタウンはこちらから <https://www.ja-town.com>
▶ お問い合わせは ☐ shop@ja-town1.com

